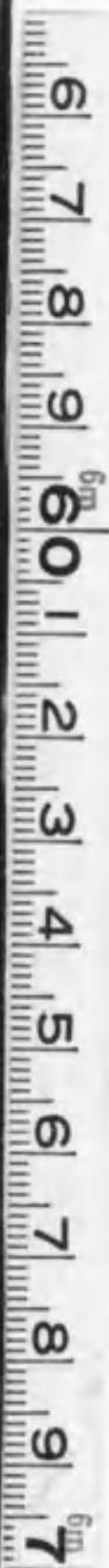


特261

999

一難寶郎書<sub>乙</sub>

中阿含經



始



特261  
999



中阿鎔未曾

有法品手長

者經第十

初一日誦

我聞如是是一

時佛遊阿羅

鞞伽羅在在和

林中余時世

尊告諸比丘

手長者有八

未嘗有法云

何為八手長



者有少欲有

信有慙有愧

有精進有念

有定有慧手

長者有少欲

者此何因說

手長者自少

欲不欲令他

知我少欲有

信有慙有愧

有精進有念

有定有慧手

長者自有慧不欲令  
他知我有慧手長者

有少欲者因此故說  
手長者有信者此何

目訖手長者得信堅  
固深著如來信根已

立終不隨外沙門梵  
志若天摩梵及餘世



聞手長者有信者因  
此故說手長者有慙

者此何因說手長者  
常行慙恥可慙知慙

惡不善法穢汙煩惱  
受諸惡報造生死本

手長者有慙者因此  
故說手長者有愧者

此何因說手長者常  
行羞愧可愧知愧惡

不善法穢汙煩惱受  
諸惡報造生死本手

長者有愧者因此故  
說手長者有進者此

何因說手長者常行  
精進除惡不善備諸

善法恒自起  
意專一  
堅固為諸善本  
不捨

方便手長者有進者  
因此故說手長者有

念者此何因說手長者  
觀內身如身觀內

覺心法如法手長者  
有念者因此故說手

長者有定者此何因說手長者離欲離  
惡不善之法至得第四禪成就遊手長  
者有定者因此故說手長者有慧者此

何因說手長者脩行智慧觀興衰法得  
如此智聖慧明達分別曉了以正盡苦  
手長者有慧者因此故說手長者有八

未曾有法者因此故說佛說如是彼諸  
比丘聞佛所說歡喜奉行  
手長者經第十竟

中阿含未曾有法品第四竟

初一日誦

中阿含經卷第九

天保寶字元年閏八月十日武部位子少初位下上毛野君大河勘本經



覆位興福寺沙門行禪證

天平寶字三年九月廿七日散位少初位下一難寶郎寫

坤宮舍人少初位上秦志寸忍國初校

左大舍人少初位上大隅志寸君之再校

散位從八位下大綱君廣道參校

裝書迄散位少初位上秦志寸東人裝

用穀紙卅一張

349

709

# 赤城和漢名蹟叢書

## 編纂特色

- 一、學習手本及び鑑賞用として必須なる和漢名蹟を網羅。
- 一、碑帖の文字は原寸、細字は手本として適する様一部分擴大する。
- 一、集字と異り、原帖の儘故、文字前後の脈絡、布置大小の調和等すべて自然である。
- 一、碑帖の文字の缺損したるものは同種の多くの拓本の同字中より最佳なる文字を選んで補填した。
- 一、白字中の汚れは全部除き筆意を明瞭にし學書者の好手本たることを期してある。
- 一、仕立は折本とし、習ひよく見よく、碑法帖出版に於ける劃時代的新装である。

## 中阿含經編纂に當つて

- 中阿含經は、原寸の文字は小字の爲めに、學書者の便を慮つて、一部は大きく、一部は中位に、一部は原寸に掲げた。
- 最初の二頁一行の部分は約三位の大きさに擴大した。
- 中部の二頁二行の部分は約二位の擴大になつてゐる。
- 最後の二頁三行の部分が原寸である。
- 末尾の細字の奥書もまた原寸である。

第一卷	王龜之蘭亭叙(張金界奴本)	第十三卷	褚遂良孟法師碑
第二卷	同	第十四卷	同
第三卷	集字聖教序(上)	第十五卷	同
第四卷	同	第十六卷	顏真卿建中告身帖
第五卷	智永楷書千字文	第十七卷	一筆賣郎中阿含經
第六卷	趙子昂行書千字文	第十八卷	傳教大師天台法華宗年分緣起
第七卷	智永草書千字文	第十九卷	同
第八卷	蘇孝慈墓誌銘	第二十卷	弘法大師請來目錄(上)
第九卷	歐陽詢皇甫君碑(上)	第二十一卷	同
第十卷	同	第二十二卷	同
第十一卷	同	第二十三卷	嵯峨天皇李嶠信帖
第十二卷	同	第二十四卷	傳稱逸勢伊都内親王願文

昭和十一年一月十二日印刷  
昭和十一年一月十七日發行

定價 五拾圓

編輯者 吉岡貞雄  
發行所 東京市牛込區原町二ノ二三  
印刷人 中山文雄  
印刷所 東京市牛込區加賀町一ノ二二  
大日本印刷株式會社

發行所 赤城出版社  
東京市牛込區原町二ノ二三  
電話東京三八六六番

終